



Japan
Heart

年次報告書

2022.4.1～2023.3.31

2022 Annual Report



日本のサービス
イノベーション2022



病気になったら、病院に行く。 それが当たり前の世界を、ここから。

ジャパンハートはこれまで、私たちの病院を訪れる一人一人の患者さんの命と人生に向き合ってきました。でも、私たちの活動国には、まだ私たちの手が届かない患者さんたちがたくさんいます。

病気になったら、病院に行く。検査を受けて診断してもらい、必要な治療を受ける——それが当たり前ではない人が、数多く残されているのです。

誰も取り残さない医療の実現に向けて、私たちはさらなるチャレンジを続けてまいります。



Vision ビジョン

すべての人が、生まれてきて良かったと思える世界を実現する。

Build a world where everyone can be grateful for the gift of life.

Mission ミッション

医療の届かないところに医療を届ける。

To deliver healthcare to medically-isolated areas.

私たちは、出会えた一人ひとりの輝く人生のために、治療を超えた医療の可能性を追求し続けます。



ジャパンハートは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ジャパンハートは、誰もが「生まれてきて良かった」と思える社会を実現するため、医療・福祉分野をはじめ様々な活動を実施しています。私たちは、子どもたちの未来のために「持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)」の達成に貢献します。この報告書では、紹介する各プロジェクトに関連したSDGs目標のアイコンを併記しています。

<https://www.un.org/sustainabledevelopment/>

表紙の写真はミャンマーにある養育施設「Dream Train (ドリームトレイン)」の子どもたち

CONTENTS

ジャパンハートのビジョンとミッション	
SDGs 達成への貢献/目次	2-3
吉岡秀人 ジャパンハート最高顧問 メッセージ	
ジャパンハートのあゆみ	4-5
〈2022年度活動報告〉	
2022年度 TOPICS	6-7
2022年度の活動ハイライト	8-9
カンボジア	10-11
ミャンマー	12-13

ラオス	14
グローバル人材育成	15
国際緊急救援 (IER)	16-17
地域医療支援 (RIKAjob)	18
スマイルスマイルプロジェクト	19
活動へのご支援/広報実績	20-21
ご支援いただいた企業・団体	22
会計報告	23



40年前、10代の終わり、私がまだ何者でもなかった頃。私は医者になって貧しい人たちの力になりたいと思っていた。

28年前、初めて途上国といわれる国で海外医療に足を踏み込んだ時、私は単なる医者で、目の前の私を頼ってきてくれる患者たちを、生涯淡々と、ひたすらに治療していく――そうして、この人生を終えていくことになるのだらうと思っていた。だから、その30年後の今、こんな挑戦ができるなどと思ってもいなかった。

曇って先が見えないような人生でも、諦めず継続していれば、時に光が差して自分の新たな可能性に気づくこともある。山を高く登れば、心の目さえ曇っていなければ、より壮大な景色を見る幸運にも恵まれる。経済的には恵まれなかった人生だったが、代わりに素晴らしい経験と素晴らしい友人たち、仲間たちを私は得ることができた。

振り返れば、私の周りは無数の患者やその家族の涙で溢れてきた。その涙は時に私を溺れさせたが、多くの仲間たちによってそこから救い出されてきた。だからここまで生きてこられた。それでも、その中で救われた患者たちによって私の人生にもたらされた舞い散る美しい花びらをみた時に湧き上がる、恍惚感にも似た感動や身もだえするような芳香は、私を今もこの生き道から決して離してはくれない。

人生にはかくも美しき景色が存在するのだと、この世に生まれいでた幸せを教えてくれる。一人一人と積み重ね、一つ一つ丁寧に、一步一步山を登り、少し開けたその場所が、今、眼前に静かに広がる。

私はこの景色や感動を決して私だけではなく、より多くの人たちに経験してもらいたいと、長い間思ってきた。人は必ず死ぬ。そのわずか100年足らずの刹那にも、この残酷な現実が存在する世界だからこそ、そこに差す光はさらに輝き、私たちのこの命は生まれるに値したと実感できるのだと信じたい。

かつて私は、たった一つの自身の命と人生ですら、扱いに困っていた。それがいつしか、多くの人々の命と人生を扱わねばならぬようになっていた。気がつけば、私の命や人生をどう扱うのかなどということも忘れ去り、悩みもしなくなっていた。私の命を輝やかせたいのならば、私の命に拘ってはいは輝きはできないのだという、この世の道理を知ってしまった。同じ人生でも、それはその背景によって全く異なる輝きを放つのだ。

今回カンボジアに作る小児病院は、上手くいけば、継続的に毎年何千人もの子ども達の運命を左右するようなものになると自覚している。この病院はカンボジアのみならず、軍事

クーデターによって医療体制が壊滅的なミャンマーの子どもたちや、小児医療が遅れているラオスの子どもたちの搬送先にもなる。

10代の頃、何も目的もなく、日々ダラダラと生きていた、どこにでもいる1人の少年が、気がつけば何万人もの子ども達の生命を救える機会を頂けるなどという、天の采配に心から感謝している。ただ、これは私一人ではとても成し得ない挑戦であることも、よく分かっている。多くの仲間を引き入れ、様々な能力の違う多くの仲間とともに、自分でない、見も知らずの誰かのために生きていくことは、何と尊く、何と幸せなことだろう。

今、この時点で、誰もあなたや私には感謝していない。でも、未来のいつか、必ず多くの人々があなたに感謝する未来を信じて、前に進んでいく。こんな幸せな挑戦は、私の人生でこれまでなかったことだ。どうか、この世のものとは思えない、その美しき景色を、私とともに見にいってくれないか？

ジャパンハート最高顧問
ファウンダー
小児外科医

吉岡秀人

ジャパンハートのあゆみ

1995

吉岡秀人・ミャンマーで医療活動を開始

2004

国際医療ボランティア団体ジャパンハート設立
《ミャンマー》ワッチェ慈善病院で医療支援活動を開始
国際長期研修開始（現・国際看護師・助産師研修）

2008

《日本》東京事務局開設
《ミャンマー》サイクロン緊急救援・孤児支援開始
《日本》僻地・離島支援（現・RIKAjob）開始
《日本》心の医療事業（現・SmileSmilePROJECT）開始
自由都市・堺 平和貢献賞 奨励賞受賞
NPO法人格取得

2009

《カンボジア》医療支援活動を開始

2010

《ミャンマー》養育施設DreamTrain開設
《ミャンマー》視覚障がい者医療マッサージ訓練センター開設

2011

《日本》東日本大震災緊急医療支援、復興支援開始
12月、宮城県石巻「ジャパンハートこども・内科クリニック」開設
《カンボジア》夢の架け橋プロジェクト開始
「認定NPO法人」として認定を受ける

2012

大山健康財団賞受賞

2013

《ラオス》医療支援活動を開始
《フィリピン》台風30号緊急医療支援

2014

《タイ・インドネシア》国際緊急救援事業開始
外務大臣表彰
沖縄平和賞受賞

2015

《ミャンマー》大洪水 緊急支援
《ミャンマー》小児心臓病サポート支援開始

2016

《日本》熊本地震 緊急支援
《カンボジア》AAMC（現・ジャパンハートこども医療センター）開院
《ミャンマー》小児心臓病サポート開始
大山激励賞受賞（河野朋子）

2017

社会貢献者表彰受賞
保健文化賞受賞（厚生労働大臣賞／第一生命賞／NHK厚生文化事業団賞／朝日新聞厚生文化事業団賞）
《ミャンマー》小児生体肝移植プロジェクト開始

2018

《ミャンマー》ミャンマー国内初の小児生体肝移植成功
《インドネシア》スラウェシ島地震 緊急支援
第22回地球倫理推進賞（国際活動部門）、文部科学大臣賞 受賞

2019

《カンボジア》「長沼給食センター」設立、患者への給食提供開始
第7回エクセレントNPO大賞「大賞」及び「市民賞」受賞

2020

《日本》令和2年7月豪雨を受け、熊本県で緊急支援
同県と「大規模災害時等における支援活動に関する協定」を締結
新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、クラスター発生施設などで医療支援を開始
国連UNIAF賞受賞

2021

《日本》令和3年8月豪雨を受け、佐賀県で医療支援活動
《日本》全国初の実介護濃厚接触者隔離施設を沖縄県に設置
第69回 菊池寛賞受賞（吉岡秀人）
第5回 ジャパンSDGsアワード SDGs推進副本部長（外務大臣）賞受賞

2022

大山激励賞受賞（神白麻衣子）
日本のサービスイノベーション2022選出
《日本》台風14号・15号 緊急支援

パンデミックを超えて、さらなる挑戦へ

崩壊した医療、 新たなチャレンジ

混乱によって取り残される患者さんたち。
「私たちにできることは何でもやる」という決意での再スタート

—— 2021年のクーデター以降、今なお不安定な状況の続くミャンマー。2011年に民主化が実現し、アジア最後のフロンティアとして注目を集め、希望と活気に満ち溢れていた頃の姿は、残念ながら今のミャンマーにはありません。それでも生きていくため、懸命に前を向いて歩もうとするミャンマーの人々。その強さを目の当たりにし、私たちにできることは何かを模索しながら挑んだ1年となりました。

経済の低迷によって貧困が進み、治安も悪化。政治的立場の違いによる衝突が各地で発生し、それによって命を落とす人や、避難生活を余儀なくされる人が増えました。加えて、クーデター以降、医療者たちの大規模なボイコットによって多くの医療機関が機能不全に陥っています。

医療態勢が崩壊する中、2022年に入って、活動再開の道筋が見えてきました。とは言っても、混乱下のミャンマーでの



手術直前の様子

活動に全く不安がなかった訳ではありません。起こりうるリスクも熟考し、それでも「医療の届かないところに医療を届ける」という私たちのミッションを遂行することを皆で決意。2022年7月には私たちの活動の原点でもあるワッチェ慈善病院で、本格的な医療活動の再開に踏み切りました。

蓋を開けてみると、周辺の治安が良くないにも関わらず、多くの患者さんたちがやって来ました。ようやく手術が受けられたことを喜び、治療後には家族とともに満面の笑顔で帰って行く姿が、私たちの目に焼き付いています。

医療崩壊によって小児がんの患者さんが継続的な治療を受けられなくなったことや、貧困によってワッチェ慈善病院までやって来ることに難しい患者さんたちが多くいることもわかりました。そこで、小児がん患者の受け入れを開始するとともに、最大都市ヤンゴンに新たな拠点となるクリニックを開設するなど、ミャンマーの崩壊した医療を少しでも補うために挑戦が続きしました。

そのチャレンジに、終わりは見えません。



河野 朋子
ミャンマー専門医療プロジェクト プロジェクトディレクター
看護師・助産師



診察の様子

Pick UP カンボジア事業との連携

ワッチェ慈善病院にて小児がんの受け入れを開始するにあたっては、カンボジアの「ジャパンハートこども医療センター」より小児がんの治療経験豊富な医療者を招聘し、医療環境整備や現地スタッフに対する教育を実施しました。さらに、現時点では設備や人材の課題からここでの治療が難しい症例の患者さんたちも救うため、ミャンマーからカンボジアに搬送して治療を行なうための体制作りも進めています。

新型コロナウイルス感染症への対応が落ち着き、人の往来がふたたび盛んになる中、昨年のジャパンハートの無償治療件数はコロナ前と同じ水準まで回復しました。この経験を通じてより多くの人に必要な医療を届けるため、私たちはさらなる挑戦に取り組んでいます。

小児がん治療開始から5年 培った実績と仲間とともに、 次の一步を

2025年、カンボジアに新たな医療拠点「ジャパンハートアジア小児医療センター」を開設します。

—— ジャパンハートがカンボジアで小児がん治療を始めてから約5年が経過しました。途上国の小児がんの5年生存率は2割とされる中で、当院でこれまでに治療を受けた患者さんの半数以上は今も元気に過ごしており、治療の機会を求めて全土から患者さんが集まるようになっています。

国境を越えた人の往来が戻った2022年度。ジャパンハートがカンボジアで運営する「ジャパンハートこども医療センター」でも、再び日本からボランティアを迎えられるようになりました。皆様のお力もあり、当院では2022年度1年間で、小児がん113件を含む計1270件の手術を実施しました。

ポルポト政権下で医療が崩壊した歴史があるカンボジアでは、今なお医療の受け皿不足が深刻で、小児がん治療をめぐる環境は特に厳しい状況に置かれています。小児がんを治療できる医療機関は国内に4カ所のみ。そのうち1カ所は国立病院ですが、保険制度がないため治療費が高額。ほかの

2カ所は無償で治療してくれる慈善病院ですが、白血病など一部の疾患にしか対応していません。

そうした中で、当院では臓器や組織の中に塊をつくる「固形がん」と呼ばれる疾患全般の治療を、無償で行ってまいりました。かつては不治の病とされた小児がんですが、先進国では今や8割が治る病気に。私たちはこれまでの経験から、先進国のように整っていない途上国の医療設備や予算の中でも、工夫をこらせば多くの命を救えると確信しています。

一方で、インフラ面などの限界から、今の環境でこれ以上の医療を提供することは難しいのも事実です。そこで、私たちは新たに病院を建設することを決めました。新たな病院は首都プノンペン近郊に作られ、小児がん治療を中心に小児医療全般に対応する予定です。

「カンボジアの医療を自分たちで良くしたい」と熱い思いで活動を支えてくれている多くの現地スタッフとともに、一丸となってこの大きなチャレンジに臨みます。



神白 麻衣子
ジャパンハートこども医療センター 院長



小児がん闘病中の1歳未満の女の子

Pick UP 「クリスマス会」開催

小児がんの治療中は免疫が大幅に低下するため、長期に渡って病院内で生活せざるを得ません。そこで、子どもたちが楽しみながら生活できるよう工夫しています。さまざまなイベントもその一環。12月にはツリーを飾り付けたり、帽子を作ったりと子どもたちも準備段階から参加して「クリスマス会」を開催しました。「吉岡サンタ」も登場し、子どもたちはプレゼントを受け取って大喜びでした。

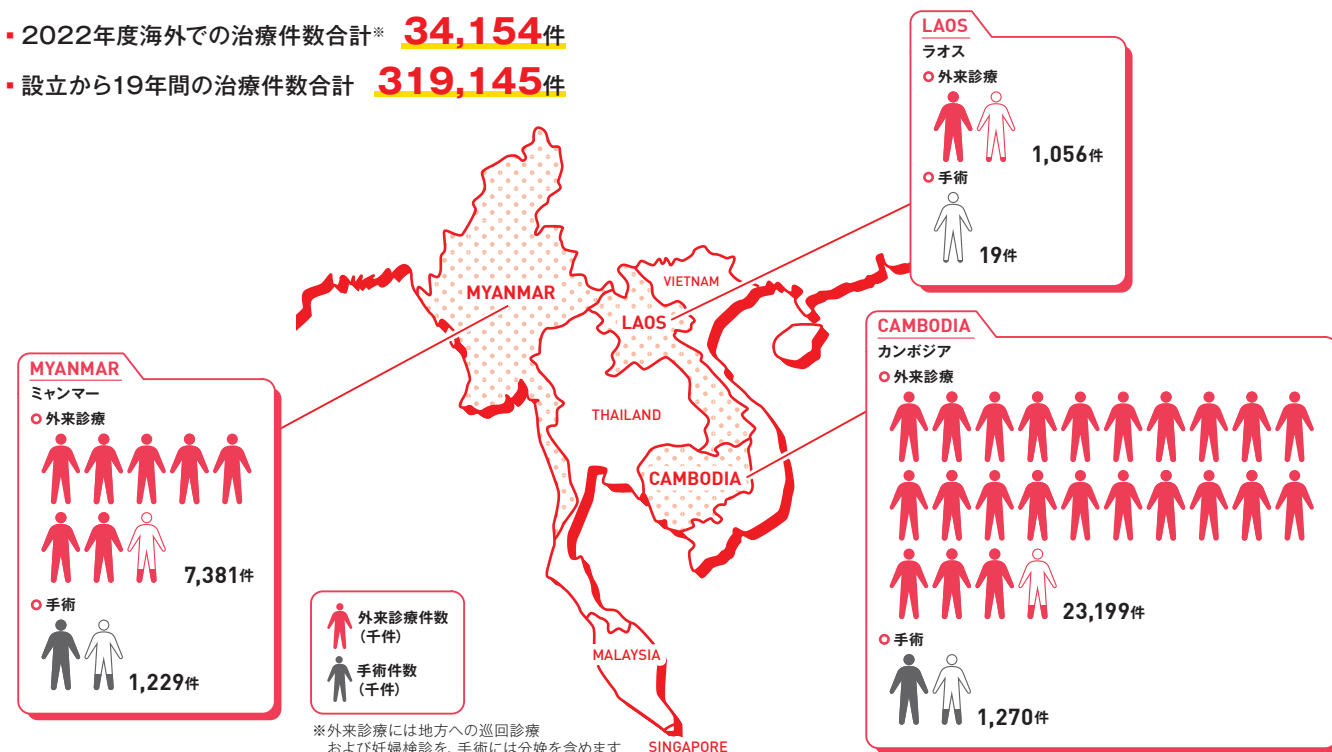


「クリスマス会」開催

ジャパンハートの活動に共感し、協力してくださった皆様のおかげで活動を維持し、多くの患者さんに医療を届けることができました。

▶ 2022年度治療件数

- ・2022年度海外での治療件数合計※ **34,154件**
- ・設立から19年間の治療件数合計 **319,145件**



2022年度ジャパンハート活動ハイライト



【ミャンマー】
ヤンゴンに、新たなクリニック
「Rainbow Bridge Clinic」開院



【カンボジア】
カンボジアからチャンテックくん来日治療



新病院「ジャパンハートアジア小児医療センター」開設決定

2022

2023

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月



【ミャンマー (Dream Train)】
Dream Train出身のラウンソー、
ワッテ慈善病院で看護助手研修
開始 (写真右)



【ラオス】2年半ぶりにウドムサイ県で日本人医師が執刀



【スマイルスマイルプロジェクト】
新日本製薬株式会社協賛
長崎県ハウステンボスご招待企画実施



【ラオス】
ウドムサイ県豪雨災害の支援



【iER】沖縄県と「大規模災害時等における
支援活動に関する協定」



【スマイルスマイルプロジェクト】
エイベックス・ヘルスケアエンパワー合
同会社主催小児がん治療支援チャリ
ティーライブ「LIVE EMPOWER
CHILDREN 2023」に協力団体とし
て参加



チャリティーアプリ「1 TAP SAVE LIFE」
ブラウザ版リリース



【スマイルスマイルプロジェクト】大和証券、鹿島アントラーズ
ご協力のもとクラウドファンディングを実施



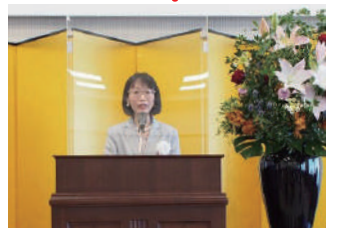
【iER】災害用Heart Stockを
リリースし、台風14号・15号に
より甚大な被害を受けた宮崎県・
静岡県の一部地域に緊急物資
支援を実施



【カンボジア】シーバン医師が来日
独立行政法人国立病院機構岡山医療センターで研修



独立行政法人国立病院機構岡山医療
センターとのパートナーシップ協定締結



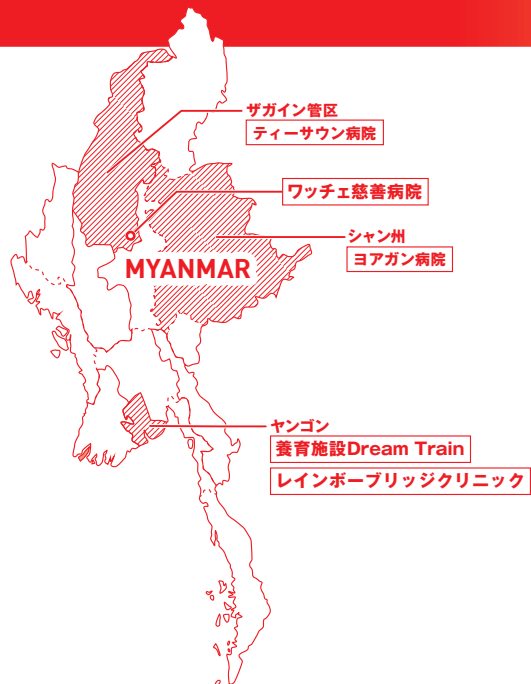
大山激励賞受賞 (神白医師)



ミャンマー

Myanmar

困難下での再始動、そして新たな挑戦へ



2021年2月のクーデター以来、
医療従事者のボイコット活動により、
人々が必要な治療を受けられない
状況が続いている。
難民・国内避難民は150万人を超え、
子ども達は学校に通うチャンスを
奪われている。

医療活動



2021年のクーデター以来、ミャンマーの医療崩壊は続いています。その結果、医療活動続ける私たちは、多くのミャンマーの人たちにとって「命の最後の砦」となりました。

制限されていた海外との往来が緩和されはじめた2022年7月、ワッチェ慈善病院では2年4カ月ぶりに日本人医療者の加わった本格的な手術活動を再開。病院は治療を求めてやってきた患者さんたちであふれました。

その中には、今までは主に国公立病院で治療を受けてきた、小児がんの患者さんたちも含まれていました。国公立病院では医療者が軍事政権への批判の表明としてボイコットを行っているため、化学療法を受けて小さくなった腫瘍を摘出する手術を受けられず、途方に暮れていると言うのです。そこで私たちは、重症患者に対応するための医療設備の整備とミャンマー人スタッフのトレーニングを行い、2023年1月から小児がん患者の手術を始めました。

ワッチェ慈善病院は主にミャンマーの中部～北部の患者さんたちを受け入れています。それ以外の地域の患者さんたちにも医療を届けるため、2023年1月には全人口のおよそ1割が住む最大都市ヤンゴンに「Rainbow Bridge Clinic」を開設。政情不安によって経済が低迷し、困窮している周辺住民に医療を届けるとともに、必要に応じてここからワッチェ慈善病院に患者さんを移送して治療する体制も整えました。

2022年9月には、口唇口蓋裂の患者さんを出生直後から成人して社会適応するまでサポートする総合治療システムの構築と、口唇口蓋裂の治療ができる現地医療者の育成を目指す「口唇口蓋裂総合治療事業」が、2年半ぶりに再開。現地の歯科専門病院で活動しています。

医療体制の崩壊によって治療を受けられず、最後の望みをかけて私たちのもとを訪れる患者さんたちを目の当たりにし、「少しでも幅広い病気に対応し、一人でも多くの患者さんに医療を届けたい」と、新たな挑戦に挑んだ1年となりました。



実績 ワッチェ：外来診療 5,568 件・手術 873件
巡回診療：外来診療 1,658件・手術 341件
レインボーブリッジクリニック：診療 155件
口唇口蓋裂総合治療事業：手術 15件

活動地 ワッチェ慈善病院、ヨアガン病院、ティーサウン病院、レインボーブリッジクリニック(ヤンゴン)

養育施設 Dream Train (ドリームトレイン)



約2年間閉ざされていた「Dream Train」の門扉が、大きく開きました。一昨年度は5名しかいなかった新規児童の数が、2022年度は24名と大幅に増加したのです。また、出身地もシャン州・カチン州・エーヤワディ地方域と広範囲に渡り、人の往来が可能になってきたことを感じました。

これまでの足踏みを大きな飛躍につなげるため、私たちは教育専門チームを発足して、子どもたちの成績管理や外部と



連携した定期試験の実施、苦手科目をフォローし得意分野を伸ばす戦略を立てました。その結果、年度末の進級進学試験は全員が通過。大学入学試験は、8名中7名が合格することがで

きました。

力を入れたのは、勉強だけではありません。私たちは子どもたちが自分や友達の個性・強みを知る機会として、アートや新たなテクノロジーなどに触れるSTEAM教育5種・キャリア教育3種・Well Being活動7種を実施しました。

2023年1月には、施設初となる短期語学留学生が約3カ月間、沖縄に滞在。これを契機に子どもたちの日本語学習意欲が高まり、3月以降、合計73名の児童が日本語学習に取り組みしました。

私たちは、子どもたちが自主性・自己肯定感・他者への信頼感を持って社会に羽ばたけるよう、常に新たな学びを探求し、子どもたちとともに成長していきます。



その他の事業

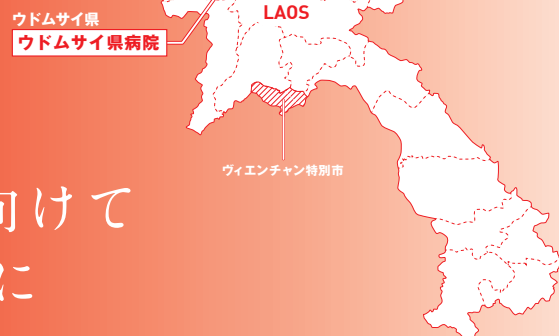
視覚障がい者自立支援事業では、対面での「医療マッサージ師養成コース」を2年ぶりに再開し、15名がトレーニングを無事に修了。マッサージ師として社会に羽ばたきました。サイクロン被災児童への教育支援や、医療系大学生への奨学金支援も、引き続き行なっています。



ラオス

Laos

忘れられた国からの脱却に向けて
まだ見ぬ未来へ、彼らとともに



医療活動



最高顧問・吉岡秀人によるウドムサイ県での甲状腺手術活動で幕を開けたラオス事業部の2022年度は、一つの区切りと新たな幕開けを実感する1年でした。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けた渡航制限により、ウドムサイ県で日本人医師が執刀するのは約2年半ぶり。難しい手術の患者さんが集まり、吉岡以外にも日本人医師1名と看護師3名、事務2名がカンボジアと日本から参加し、ラオススタッフとともに17名の患者さんの手術を実施することができました。

数字だけを見ると小さな活動ですが、今回の患者さんの中には20年以上手術を待ち望んでいた人もいます。手術のおかげで生活の質が上がり、患者さんと家族が幸せを感じている姿を見られた時、数字以上に大きな成果を実感しました。

2017年からウドムサイ県病院とともに始めた甲状腺疾患に対する活動は、1つのフェーズを無事に終了することができました。実に1000名を超える甲状腺疾患の人たちに医療を届けられたのは、現地スタッフの努力と皆様のご支援があったからです。

今後はより専門的な治療をラオスで行えるよう、日本内分泌外科学会の協力を得て、2023年から再びこの地の人々とともに歩む準備をしています。

一方、新たに小児医療に特化した活動を開始するための準備も整いつつあります。

5歳未満の死亡率が東南アジアで最も高いのがラオスです。国内唯一の子ども病院では、未だ固形がんに対する手術がほとんど行えていません。そこで、ラオスではまだ行われたことのない小児肝腫瘍を中心とした固形がん手術活動の2023年度の開始に向け、国立子ども病院と準備を進めています。

ラオスは「忘れられた国」と言われ、経済成長の歩みは遅く、医療水準も低くとどまっています。この国で生きる人たちがこれ以上取り残されないよう、私たちができることを洗い出し、次へとつなげる計画を形にした1年でした。



実績 診療1056件、手術18件

活動地 ウドムサイ県病院
国立子ども病院（ヴィエンチャン特別市）



グローバル人材育成



▶ 看護師・助産師とともに実現する 「すべての人が生まれてきて良かったと思える社会」

ジャパンハート創設時より取り組んでいる看護師の人材育成にはのべ22名が参加し、通算で300名以上の看護師を輩出しました。昨年度よりプログラム名を「グローバル看護師・助産師人材開発/実践コース」に変更し、「エビデンスに基づいた実践能力と、広い価値観、豊かなホスピタリティ、高い柔軟性を兼ね揃えた医療者」の育成を目指しています。加えて、開発したい能力を具体化し、コース内で実施する各研修はそれに沿った内容に改良。外部講師による臨床推論講義の導入などへの取り組みも進めました。

ここ数年は海外への渡航が制限されていましたが、その間も看護師たちは国内の離島・へき地やクラスター支援活動で実績を積み、海外渡航が叶った昨年は、ジャパンハートこども医療センターだけでなく、地方での移動診療などにも活躍の場を広げています。

研修を修了した看護師たちは、日本の地域医療や海外医療などの現場でさらにキャリアを積んでいます。

実績 国内活動14名（庄内余目病院2、新庄徳洲会病院6、山梨市立牧丘病院1、隠岐島前病院1、長崎県対馬病院3、名瀬徳洲会病院1）※のべ人数

海外活動16名（ミャンマー1、カンボジア15）

▶ 参加した看護師の声 かけがえのない時間／鰐川音寧さん

私にとって、コースに参加した2年間はこの一言に尽きます。患者さんと家族の幸せのため、看護師として何ができるか、本気で悩み本気で考えた日々でした。価値観や考え方が異なる中、スタッフと信頼関係を作り、話し合いを重ねることで、子どもたちと家族の笑顔を守りたいと強く思いました。ときに自分の弱さと向き合い、そしてカンボジアの医療の現実と直面し、泣いて笑って、葛藤しながらも患者さんと家族とスタッフとともに闘った日々は、ひとつのことに真剣に向き合うことができた時間は、本当に貴重でかけがえのないものでした。

スタッフとして活動する今、この経験が、自分の中で大切にしたいこととなり、私の根源となっています。患者さんと家族と、そしてスタッフと向き合うことは、いつも正解がなく、うまくいかないこともたくさんあります。しかし、守りたいものが増えた今だからこそ、平和で穏やかな笑顔あふれる世界のため、これからもひとつひとつ丁寧に大切にしていきたいと思っています。

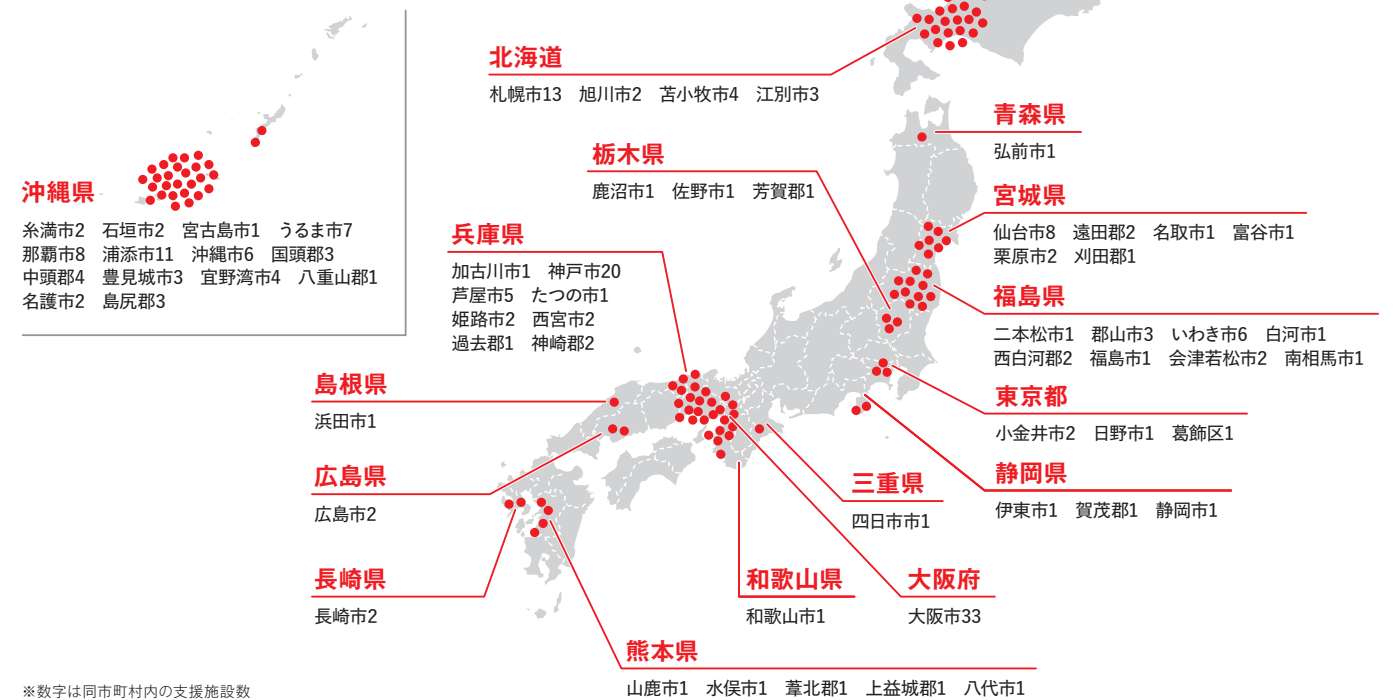


鰐川音寧さん
右から2人目 ▶



新型コロナウイルス感染症緊急支援

全国17都道府県62自治体を支援



国際緊急救援

iER：International Emergency Relief



▶新型コロナウイルス感染症緊急救援

2020年4月以降2022年9月末までに、全国201カ所の医療機関/福祉施設に看護師を中心とする医療チームのべ485名を派遣しました。派遣先では、コロナ病床やクラスターとなった機関の欠員補填に加え、感染制御のためのゾーニングやPPE着用指導など、多岐にわたる活動を実施し、事態の早期収束に努めました。並行して、全国451カ所の医療機関/福祉施設に対し、調達が困難となっていたアイソレーションガウンやN95マスク等の寄贈を行っています。寄贈先の選定には公募に加え、2021年2月に開発した寄付物資マッチングプラットフォーム「Heart Stock」を活用しました。

実績 人的支援：201カ所／のべ485名
(2020年4月～2022年9月末)
物的支援：451カ所
アイソレーションガウン約370,000枚、
N95マスク約75,000枚 ほか

▶濃厚接触者隔離施設

2021年11月、沖縄県宜野湾市に独自で濃厚接触者隔離施設を開設し、自治体や周辺医療機関との連携のもと、

2022年9月末の閉所までに計40名（入院日数のべ323日）の要介護濃厚接触者を受け入れました。

本施設設置の背景には、介護が必要な新型コロナウイルス感染症濃厚接触者がクラスター施設や自宅に取り残されてしまう課題に対して、感染症対策の文脈では行政や医療機関の介入が難しい実情がありました。

濃厚接触者自身を隔離することで新規感染リスクを抑制するとともに、介護者や医療機関の負荷を減らし、地域医療/福祉体制の早期平常化に寄与しました。特に、65歳以上の高齢者だけではなく、平時からレスパイト受け入れ機関の少ない医療的ケア児の受け入れを行ったことで、ご家族から感謝の声をいただいています。

実績 受入人数：40名 (のべ323日／平均滞在日数約8日)

▶台風14号・15号緊急救援

台風14号による影響で、主要道路寸断により孤立した宮崎県椎葉村に対し、9月22日に先遣隊を派遣。消毒ジェル120本、水500ml 150本、マスク240枚、ビスケット180個、携帯トイレ220個を村内の社会福祉協議会に寄付しました。

また、同時期に発生した台風15号による影響を受け、大

雨・暴風による土砂崩れなどで断水が続く静岡県清水区に対し、9月27日に先遣隊を派遣し、現地の福祉施設4カ所を訪問。断水で調理ができず災害用の非常食でしのいでいた2施設に対し、合わせてレトルト介護食288食分、飲料水48リットル、手指消毒用アルコール10リットル（1L×10本）を直接お持ちし、ご活用いただきました。



▶「災害版Heart Stock」のリリース

災害発生時により迅速な物的支援を実施するため、避難所などで特にきめ細やかなサポートが必要な要配慮者向け支援パッケージを富山県および佐賀県に備蓄。これと並行して、発災時に地域の医療機関などが必要数の支援物資を申

し込めるWebアプリ「災害版Heart Stock」をリリースしました。本システムは、有事において、医療/介護福祉施設限定コミュニティ「ジャパンハートソーシャルネットワーク」を中心に展開されます。



▶沖縄県との災害時包括支援協定

2022年11月、沖縄県と「災害時包括支援協定」を締結し、調印式を実施しました。今後、同県内で大規模自然災害や感染症拡大時による支援ニーズが発生した際は、より迅速な連携と対応が可能となります。

▶iER登録ボランティア研修

第9回・第10回となる新規登録ボランティア研修を実施しています。2023年3月9日（木）～11日（土）に行われた日本災害医学会では、登録ボランティアがジャパンハートでの災害支援活動について発表を行いました。また、既存登録者向けに、全4回のステップアップ研修を実施しています。



地域医療支援／RIKAjob



▶ 認知度向上を目指すとともに、 病院との協働で働きやすい環境作りを

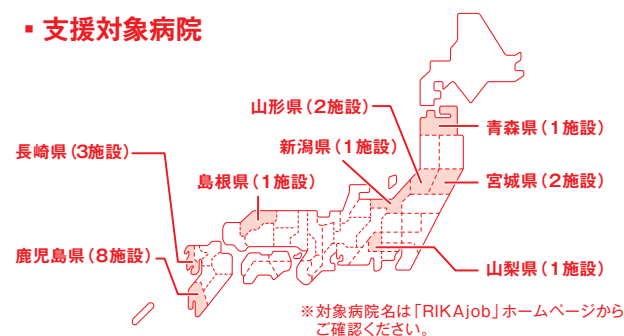
2018年度に立ち上げた地域医療支援事業は、「RIKAjob」サイトを通じた看護師と病院のマッチングを実施しています。2022年度は提携先医療機関の医師、看護部長、派遣看護師をゲストに迎えたRIKAjob説明会を4回（うち1回は東京会場とオンラインとのハイブリッド）開催し、のべ144名にご参加いただきました。これと並行して、看護師・助産師を対象に、吉岡秀人とともに奄美大島と喜界島の病院を見学し、離島医療を身近に感じていただく病院見学会も実施しました。

全国の離島・へき地の病院からの問合せも増加し、RIKAjobの認知度拡大を実感するとともに、より多くの看護師・助産師にRIKAjobの活動を知ってもらう方策を検討しました。2022年度は、全支援対象病院にジャパンハートのスタッフが訪問し、派遣された看護師が地域に馴染むためのサポートに加え、ここでしか学べない体験ができるよう、病院と協働して取り組むための情報連携を強化しました。



実績 派遣病院・施設数：19
派遣者数：看護師35名、助産師5名
(2008年からの累計479名)

■ 支援対象病院



▶ 国内病院支援プロジェクトの始動

国内にもある「医療が届かない場所」に医療を届けるためには、私たちが病院と看護師をつなぐだけでは足りません。病院自身が自分たちの職場や地域の良さ、長期的に人員確保するための環境改善について、発信していくことが求められています。そこで、吉岡秀人とともに病院と協力して魅力ある病院づくりを担うプロジェクト看護師を募集し、6名が参加しました。プロジェクトメンバーは吉岡秀人と病院とのミーティングにも同席し、看護師自身の手でより良い職場を築き上げることを目指します。

スマイルスマイルプロジェクト



▶ 闘病中の子どもたちの 「心を救う医療」で拡がる支援の輪

スマイルスマイルプロジェクトでは、日本国内で小児がんと向き合う子どもたちとご家族の旅行に医療スタッフが付き添い、レジャースポットや温泉などへのお出かけのお手伝いをしています。2022年度は、子どもたちとご家族、のべ236名のサポートを実施しました。パンデミックの収束や企業による社会貢献活動の推進を背景に、医療従事者をはじめとするボランティア登録者も増加し、過去最多となる187名の方に活動へのご参加をいただきました。

また、2008年に開始した当事業も拡がりを見せ、現在では全国15か所の小児がん拠点病院との連携があります。今後も地域の医療機関との連携を強化していくことで、より安全に安心して子どもたちがご家族との時間を楽しめるような体制づくりを目指してまいります。

実績 個別のご家族につきそう企画：29件
協賛企業による招待企画：12件
株式会社一休協賛の宿泊企画や製薬企業協賛のキッズセミナーなど

◀ ご家族からのお便り

「ハウステンボスご招待企画」に参加

入院中の娘の願いは「弟のかっくんに会いたい」でした。大好きな弟に会えない1年を過ごし、やっと家族4人が揃っても、在宅酸素が必要だった娘には外泊なんて夢のまた夢でした。そんな時、医療者の付き添いはとても心強いものでした。スタッフの方がとても親切で、娘の車椅子を押してくれたり、疲れた私たちの代わりに子どもたちと乗り物に乗ってくれたりしました。子どもたちはキラキラした笑顔で「またお姉ちゃんたちと遊べるよね？」と話していました。そのハウステンボスご招待企画に今年も参加することが出来ました。去年とは違い、娘は車椅子も酸素も必要ない姿で去年は乗れなかった乗り物で楽しそうに遊んでいました。ハウステンボスが家族の思い出の場所になりました。家族が笑顔になれる闘病生活のご褒美、ありがとうございました。



活動へのご支援

私たちの活動は、皆様からのご寄付によって成り立っています。

いただいた寄付金・募金は「医療の届かないところに医療を届ける」ため、大切にに使わせていただきます。

ジャパンハートは認定NPO法人です。

ジャパンハートにご寄付いただくと、税制上の優遇が受けられます。

所得控除と税額控除から、いずれか有利な方を選択することができます。

所得控除の場合、(寄付金額－2,000円)×40%の額が所得税から控除されます。

2023年6月29日以降のジャパンハートへのご寄付は、**紺綬褒章授与申請の対象**となります。

個人の方は500万円以上、法人は1000万円以上のご寄付が申請の対象で、事前申請による分納も可能です。

詳しくは東京事務局（電話：03-6240-1564 メール：publicity@japanheart.org）までお問い合わせください。

《控除の対象とならないもの》

- ・会費
- ・イベント/ボランティア活動/研修などの参加費
- ・募金箱への募金
- ・匿名寄付

継続的な寄付 (マンスリーサポーター)

1日100円から、心を救う医療を届けることができます。

【ベーシックプラン】

3,000円/月

1年間で約70名の患者さんを診察できます。

【スタンダードプラン】

10,000円/月

1年間で約10名の患者さんを手術することができます。

【プレミアムプラン】

100,000円/月

1年間で小児がん患者さん1名を治療することができます。

プランに応じて一般には公開していない活動詳細および現場の声など特別コンテンツの閲覧、サポーター限定講演会へのご招待など、ジャパンハートや国際協力／医療支援をもっと身近に感じていただける御礼の場をご用意しています。詳しい御礼の内容は、ホームページをご覧ください。

▶オンライン決済 (クレジットカード)

団体ホームページ「寄付をする」ページへ。
「継続的な寄付」を選び決済をお願いします。

▶口座からの自動引き落とし

電話、メール、団体ホームページ「お問い合わせフォーム」にて口座振替用紙をご請求ください。

継続的な寄付に関するページはこちら▶



今回のみの寄付

関心のある課題、支援したい分野を選択してご寄付いただくことができます。

▶オンライン決済 (クレジットカード)

団体ホームページ「寄付をする」ページへ。「今回のみ寄付」を選び決済をお願いします。

▶口座への振込み

お申込み方法

〈ゆうちょ銀行からお振込みの場合〉

銀行名 ゆうちょ銀行
口座名義 特定非営利活動法人ジャパンハート
記号番号 00910-3-166806

〈他の金融機関よりお振込みの場合〉

銀行名 ゆうちょ銀行
口座名義 トクビ ジャパンハート
預金種目 当座

店名 ○九九店 (ゼロキュウキュウ店)
店番 099
口座番号 0166806

遺贈での寄付

遺言書にすべて、または一部の財産の受取人としてジャパンハートをご指定いただくことで、大切な資産を未来のためにお役立ていただけます。

詳細資料をご用意しておりますので、以下までお問い合わせください。

※必要な手続きを取ることで、税法上の特例措置が受けられます。

※実際の手続きを行う際は、弁護士などの専門家や、信託銀行などの専門機関への相談をお勧めします。

<お問い合わせ先>

東京事務局 遺贈担当 03-6240-1564 メール：izou@japanheart.org

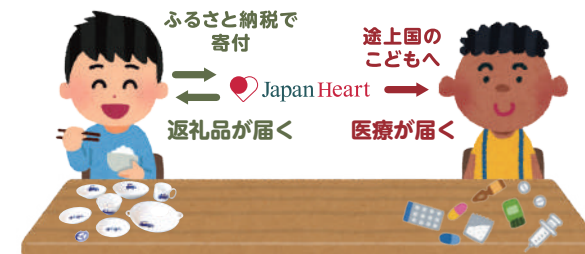


ふるさと納税で寄付

2020年12月にジャパンハートが事務所を開設した佐賀県では、NPO団体を支援する制度を実施しています。

ジャパンハートを指定して佐賀県にふるさと納税 (寄付) をすることで、寄付額の85%がジャパンハートの活動に活用されます (15%は県の事務費や県民協働の地域づくりに活用)。

ふるさと納税を利用した寄付金のうち、2,000円を超える部分については、所得税の還付や住民税の控除が受けられます。(一定の上限があります)



身近な物で寄付

書き損じはがき30枚で、5歳の子ども10人に抗生物質の注射をすることができます。

①古本で寄付する：読み終えた本、DVD、CDなど。

③洋服で寄付する：使わないブランドものの洋服など。

②物品で寄付する：未使用切手や使わなくなったカメラや携帯など。

※ご寄付いただく物の送付先は各協力事業者になります。
詳細は、団体ホームページ「支援する」ページからご確認ください。

ジャパンハートアドバイザリーボード



本田 圭佑
挑戦者



田村 淳
ロンドンブーツ1号2号
タレント



吉田 正樹
株式会社ワタナベエンターテインメント
代表取締役会長



小松 成美
作家



武田 双雲
書道家・現代アーティスト



樹林 伸
マルチコンテンツ
クリエイター



山田 進太郎
株式会社メルカリ
代表取締役CEO



望月 理恵
株式会社セントフォース取締役
フリーアナウンサー



松浦 美穂
TWIGGY,
オーナースタイリスト

アドバイザーの方々には、イベントへの登壇やマンスリーサポーター限定コミュニティ「ジャパンハート部」Facebookグループへのご参加などを通じて、私たちと活動をともにし、応援いただいています。

メディア実績

これまでの主なTV出演

2009～11年 毎日放送「情熱大陸」計3回出演

2013年 NHK BSプレミアム「輝く女」

2014～19年 テレビ東京「未来世紀ジパング」計4回出演

内閣府テレビCM 出演

2017年 フジテレビ「あいのり Asian Journey」

2018年 テレビ東京系「世界ナゼそこに?日本人～知られざる波瀾万丈伝～」

2020年 テレビ東京「カンブリア宮殿」

2020年 フジテレビ「石橋、薪を焚べる」

2020年 フジテレビ「フューチャーランナーズ～17の未来～」

2022年 NHK BS1「最後の講義」

2022年度の主な実績

4月 北日本新聞「教育・医療支援で協定」

6月 フジテレビ「あしたの内村!!」

8月 神戸新聞「第7波 高齢者施設網渡り」

9月 テレビ朝日「スーパーJチャンネル」

10月 読売中高生新聞「シゴトビト」

11月 沖縄タイムス「コロナや災害医療支援」

11月 高知新聞「コロナ医療支援 陣頭指揮」

2月 神戸新聞「ミャンマー医療再生へ一歩」

企業・団体とのパートナーシップ

ジャパンハートは、企業・団体の皆様とお互いの特長を活かした協働によって、ともに「医療の届かないところに医療を届ける」活動に取り組んでいます。ご興味のある方はぜひお問い合わせください。

メール:publicity@japanheart.org または、ジャパンハート公式HP「お問い合わせ」よりお願いいたします。

▶2022年度のご支援事例



ダイワボウ情報システム株式会社

ダイワボウ情報システム株式会社

2020年春から続いた新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、国内外のジャパンハートの活動全般をご支援いただくとともに、社員の皆様向けに吉岡秀人の講演会などを実施いたしました。4年連続のご支援をいただいています。



小野薬品工業株式会社

2022年から5年間にわたり実施いただく「ONO Bridge Project」を通じ、ジャパンハートこども医療センターでの、X線透視装置の導入、人材育成、周辺地域への巡回診療、に対するご支援をいただいています。



KDDI株式会社

NPO等の団体と応援したい人たちをつなぐポータルサイト「キボウのカケハシ」を通じたご寄付の他、「デジタルの日（10月10日、11日）」に合わせた「#au PAYで想いを送ろう」プロジェクトで、ジャパンハートを通じて国内の医療従事者をご支援いただきました。



株式会社一休

宿泊施設やレストランで使えるポイントの提供を通じて、小児がんと向き合うお子さんとご家族の外出を支援するスマイルスマイルプロジェクトの活動をご支援いただいています。



医療法人なごみ

カンボジアでの支援活動にご関心をお寄せいただき、また、医療の提供という共通項から、同国での医療活動に対しご寄付をいただきました。



株式会社大近

同社が運営するスーパーマーケット5店舗において、食品ロスを削減するための取り組み「もぐもぐチャレンジ」を実施し、その実績に応じたご支援をいただきました。



株式会社SHIFT

小児がん治療中の子どもたちを100円からお見舞いできるアプリ「ITAP SAVE LIFE」を開発いただき、国外での医療活動をご支援いただきました。



大和証券グループ

クラウドファンディングを活用したチャリティー募金をはじめ、さまざまな形でスマイルスマイルプロジェクトを応援していただいています。



株式会社クレディセゾン

同社発行のクレジットカード、セゾンカード・UCカード会員様からご寄付として交換いただいたポイントを通じ、国内外での活動をご支援いただきました。



サンスター株式会社

VO5ヘアスプレイの寄付キャンペーンを通じて、新型コロナウイルス感染症への対応などに尽力する全国の医療従事者を応援していただきました。



SHIONOGI社会貢献支援会

国内外での医療の届かないところに医療を届ける活動にご賛同いただき、2016年より7年連続でご支援いただいています。



リコーリース株式会社

同社の「豊かな未来積立金」制度を通じて、社会課題の解決を目的とした「循環創造型寄付」の枠組みで、国内外の医療支援活動にご寄付いただきました。

サポート活動によるご支援



ツバメタオル株式会社

カンボジアの病院や全国の災害被災地などにタオルをご供与いただいたほか、災害弱者に必要な物資を供給する「災害用Heart Stock」にバスタオルをご提供いただきました。



ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ

これまでに、チャリティーイベントを通じて全国の医療従事者をご支援いただいた他、コンシューマーヘルス事業部（現Kenvue）より「災害用Heart Stock」に救急ばんそうこうをご提供いただきました。



オルビス株式会社

スキンケア製品で新型コロナウイルス感染症に対応する全国の医療従事者をご支援いただいた他、「災害用Heart Stock」に基礎化粧品セットをご提供いただきました。

会計報告

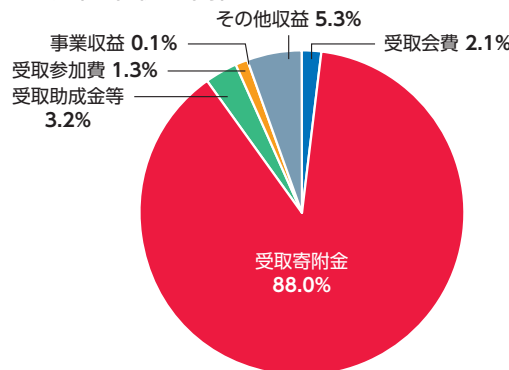
▶2022年度 活動計算書

2022年4月1日～2023年3月31日

(単位:円)

科目	決算額	前年度決算額
I 経常収益		
1 受取会費	18,080,000	18,709,007
2 受取寄附金・資産受贈益・受取役務寄附金	749,368,244	702,610,172
3 受取助成金等	26,836,170	205,559,917
4 受取参加費	10,698,821	34,140,171
5 事業収益	803,190	832,085
6 その他収益	45,387,575	26,241,334
経常収益計	851,174,000	988,092,686
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費	248,386,107	165,605,772
(2)その他経費	363,680,164	258,968,261
旅費交通費	31,331,095	33,596,061
学業・子ども支援費	29,607,508	25,838,205
減価償却費	26,499,277	27,171,655
消耗品費 (緊急救援活動に係るPPE購入費用を含む)	116,323,885	18,582,980
医療支援・医療器具備品費	56,827,652	29,378,237
地代・家賃	13,450,419	10,649,468
広告宣伝費	12,570,922	31,912,118
その他活動に係る経費	77,069,406	81,839,537
事業費計	612,066,271	424,574,033
2 管理費		
(1)人件費	15,774,735	22,114,163
(2)その他経費	23,079,194	22,430,871
管理費計	38,853,929	44,545,034
経常費用計	650,920,200	469,119,067
当期経常増減額	200,253,800	518,973,619
III 経常外収益		
固定資産売却益 (海外土地・海外車両)	-	29,240,901
前期損益修正益 (前期コロナ対応派遣業務に係る入金)	5,251,885	-
経常外収益計	5,251,885	29,240,901
IV 経常外費用		
固定資産売却損	-	-
前期損益修正損 (前期コロナ対応派遣業務に係る原価)	6,417,623	-
過年度受取参加費返金等	3,367,183	805,922
控除対象外消費税等	-	-
経常外費用計	9,784,806	805,922
税引前当期正味財産増減額	195,720,879	547,408,598
法人税、住民税及び事業税	100,000	70,000
当期正味財産増減額	195,620,879	547,338,598
前期繰越正味財産額	1,346,452,551	799,113,953
次期繰越正味財産額	1,542,073,430	1,346,452,551

▶経常収益内訳



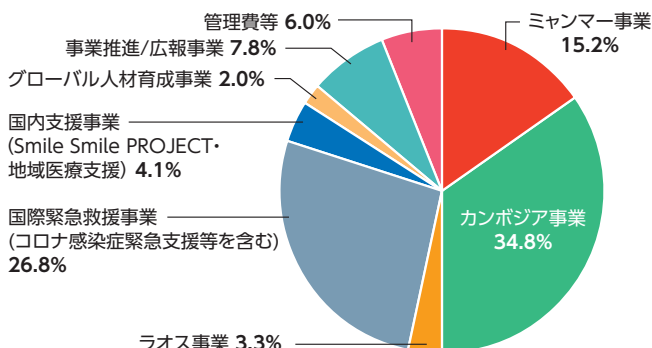
▶2022年度 貸借対照表

2023年3月31日現在

(単位:円)

科目	決算額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金預金	1,197,291,148
棚卸資産	810,666
前払費用	3,716,764
未収金	16,299,597
その他	1,138,300
流動資産合計	1,219,256,475
2 固定資産	
土地	406,029
建物	222,373,566
建物附属設備	32,698,372
工具器具備品	23,928,765
ミャンマー土地賃借権	17,065,397
敷金	2,253,558
建設仮勘定	4,855,308
投資有価証券	30,000,000
その他	14,491,102
固定資産合計	348,072,097
資産合計	1,567,328,572
II 負債の部	
1 流動負債	
前受金	4,000,000
未払金	20,449,898
預り金	705,244
その他	100,000
流動負債合計	25,255,142
負債合計	25,255,142
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	1,346,452,551
当期正味財産増減額	195,620,879
正味財産合計	1,542,073,430
負債及び正味財産合計	1,567,328,572

▶経常費用内訳 (国別、事業別)



ジャパンハートが 大切にしている3つのこと

自分の人生と同じように、相手の人生を大切にする

私たちは、自他を信頼し、思い遣りの心を持ち、謙虚さを忘れず
感謝することこそが、互いの人生の価値を高めると信じます。



社会全体の幸福最大化を常に考え行動する

私たちは、社会の一員として、
今日よりよい明日を創るべく、向上心を持ち挑戦し続けます。



出会いを最高の価値あるものにする

私たちは、国、人種、政治、宗教など相手の境遇を問わず、
出会えたすべての人に対し一丸となって最善を尽くします。



Japan
Heart

特定非営利活動法人 ジャパンハート

お問い合わせ

特定非営利活動法人ジャパンハート 東京事務局 〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-10 1510ビル3階
TEL. 03-6240-1564 (平日10~17時) FAX. 03-3845-6530 E-mail : publicity@japanheart.org URL : <https://www.japanheart.org>

※本書の一部または全てを無断で複製、転載引用することを固く禁じます。



Facebook



Instagram



X (旧Twitter)